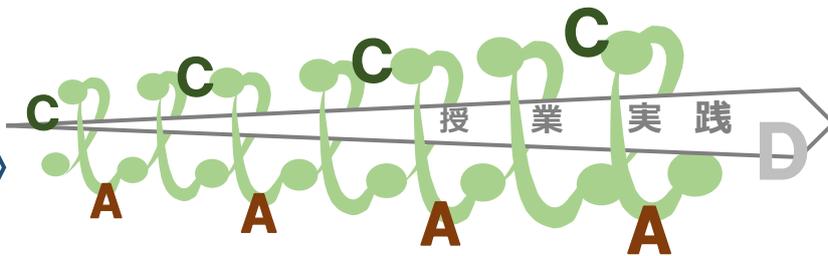


# 自立活動

## P 指導計画

- ・終末に「何ができるようになるか」
- ・個別の指導計画
- ・個別の教育支援計画



障がいによる学習上又は生活上の困難の**改善・克服**につながる。

## C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

児童生徒の実態（例）

- ・書くことが苦手だなあ。
- ・イライラが抑えられないよ。

□ Check：自己選択・自己決定ができるようになる  
「この方法でやってみよう」

□ Check：学習活動の見通しをもつ  
「今日は〇〇の学習をするんだな。」  
「〇〇したら、できるようになりそうだ。」

□ Check：自立活動を学ぶ意味が分かる  
「困ったときは、どうしたらいいのだろう。」

□ Check：これからの生活へ意欲をもつ  
「今日学んだことを生かして、苦手を克服するぞ。」  
「困ったときは、〇〇先生に相談しよう。」

□ Check：自己を肯定的に捉えることができる。  
「〇〇をすることが苦手だけれど、□□は誰にも負けないよ。」

□ Check：自分の気持ちや考えを伝えようとする  
「今の自分の気持ちは〇〇です。」  
「私の考えは〇〇です。」

児童のつぶやきや様相から振り返ることが大切です。



## A 授業改善のポイント

☞ 自立活動を学ぶ意味が分かるためには

- ・自立活動の学習が、日常生活や将来の自立、社会参加にどのように結び付いているのかを児童生徒自身がその関係を理解して、学習活動に取り組むことができるように指導内容を取り上げていくことが大切です。

☞ 学習活動の見通しをもつためには

- ・自立活動の学習活動において、児童生徒が「何のために」「何を」学習するのかについて、児童生徒と共有することが大切です。
- ・発達段階によっては、児童生徒と共有することが難しい場合もあります。そのようなときは、適度抵抗な学習活動、興味を引くような教材・教具、成就感を味わうことができるための評価について、工夫することが有効です。

☞ 自分の気持ちや考えを伝えようとするためには

- ・児童生徒の中には、過度の緊張や情緒の不安定などにより、自分の思いや考えを伝えることが難しい場合があります。そのような場合は、安心して学習活動に取り組むことができる環境の調整、伝える手段の工夫などを通して、教師と児童生徒との信頼関係を築くことが大切です。

☞ 自己選択・自己決定ができるようになるためには

- ・小学校では、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するための方法を教師が児童に提示し、児童自身が方法を選択して目指す姿に向かって努力する学習活動が大切になります。
- ・中学校では、生徒自身で方法を考え、試行錯誤をしながら目指す姿に向かって努力する学習活動が大切になります。

☞ 自己を肯定的に捉えることができるようになるためには

- ・自立活動の学習に取り組む自分について振り返ることで、がんばっている自分を確認したり、過去と比較して成長していることを実感できるようにしたりする指導が必要です。
- ・このような指導は、早期から行うこと、学校の教育活動全般を通して行われることが大切です。



☞ これからの生活へ意欲をもつためには

- ・授業の終末において、本時の振り返りや個別の指導計画の目標等をもとに、児童生徒ががんばって取り組んだことや過去と比較して成長している点を認め、励ますようにしましょう。
- ・自立活動の授業者だけでなく、担任や保護者など、児童生徒の身近な人々から価値付けられることで、意欲につながります。

ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編なども参考にして授業改善を図りましょう。